Express5800

ExpressUpdate Agent
インストレーションガイド

Rev.3.02

目次

商標

ExpressUpdate、EXPRESSBUILDER、ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Linux は Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Red Hat、Red Hat Enterprise Linux は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。MIRACLE LINUX の名称およびロゴは、ミラクル・リナックス株式会社が使用権許諾を受けている登録商標です。Asianux は、ミラクル・リナックス株式会社の日本における登録商標です。SUSE は Novell Inc.傘下の Novell SUSE LINUX Products GmbH の登録商標です。VMware は米国およびその他の地域における VMware, Inc の登録商標または商標です。Adobe 、Adobe ロゴ、Acrobat は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社）の登録商標または商標です。その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

Windows7 は、Windows® 7 Stater、Windows® 7 Home Basic、Windows® 7 Home Premium、Windows® 7 Professional、Windows® 7 Enterprise、Windows® 7 Ultimate の略称です。Windows Server 2008 R2 は、Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard operating system、および Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise operating system の略称です。Windows Server 2008 は、Microsoft® Windows Server® 2008 Standard operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-Bit operating system、および Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-Bit operating system の略称です。Windows Vista は、Windows Vista® Business、Windows Vista® Home Basic、Windows Vista® Home Premium、Windows Vista® Enterprise、Windows Vista® Ultimate の略称です。Windows Server 2003 x64 Editions は Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition operating system または、Microsoft® Windows Server® 2003 Standard x64 Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise x64 Edition operating system の略称です。Windows Server 2003 は Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition operating system または、Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition operatingsystem の略称です。Windows XP は、Windows® XP Professional x64 Edition operating system および Windows® XP Professional operating system、Windows® XP Home Edition operating system の略称です。

本ソフトウェアが利用している外部ライブラリ

本製品には、第三サプライヤー(以下「サプライヤー」)から提供されるライブラリ(以下「外部ライブラリ」)が含まれています。本製品をご利用になる前に、以下に示される外部ライブラリの該当ライセンスファイル及び NOTICE ファイルをお読みになり、それらに記載された内容にご同意された場合のみ本製品をご利用ください。「外部ライブラリ」のライセンスファイル及び NOTICE ファイルは以下に格納されています。

- /eu_agent/doc

「外部ライブラリ」のライセンスにより、ソースコードの提供が必要なものについては、以下に格納されています。

- /eu_agent/src

なお、これら「外部ライブラリ」に対しては、お客様が日本電気株式会社(以下「NEC」)と締結されました条項に関わらず、以下の条件が適用されます。

a) サプライヤーは「外部ライブラリ」を提供しますが、いかなる保障も提供しません。サプライヤーは、「外部ライブラリ」に関して、法律上の瑕疵担保責任を含め、第三者の権利の非侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証、名称の保証を含むすべての明示または黙示のいかなる保証責任も負わないものとします。
b) サプライヤーは、データの喪失、節約すべかりし費用および逸失利益など「外部ライブラリ」に関するいかなる直接的、間接的、特別、偶発的、懲罰的、または結果的損害に対しても責任を負わないものとします。
c) NEC 及びサプライヤーは、「外部ライブラリ」に起因又は「外部ライブラリ」に関するいかなる請求についても、お客様を防御することなく、お客様に対していかなる賠償責任または補償責任も負わないものとします。

以下は、本製品が利用している「外部ライブラリ」および Copyright の一覧です。

Apache Axis2, Apache Rampart : Copyright (c) The Apache Software Foundation
libiconv : Copyright (c) Free Software Foundation, Inc.
libxml2 : Copyright (c) Daniel Veillard. All Rights Reserved.
OpenSLP : Copyright (c) Caldera Systems, Inc
OpenSSL : Copyright (c) The OpenSSL Project.
zlib : Copyright (c) Jean-loup Gailly and Mark Adler

■ ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
(4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
(5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書について

本書では、「ExpressUpdate Agent」のインストール手順について説明しています。
ExpressUpdate Agent をご使用になる前に本書をよくお読みになり、正しくお使いになるようお願い申し上げます。

■ ご注意
本書での内容は、対象 OS の機能、操作方法、ネットワークの機能、設定方法に十分に理解されている方を対象に説明しています。対象 OS に関する操作、不明点については、各 OS のオンラインヘルプなどを参照してください。

本書では、管理対象装置全般について、汎用的に説明しています。管理対象装置の製品別の注意事項、制限事項は、管理対象装置に添付されているユーザーズガイドまたは「ESMPRO/ServerManager Ver5 セットアップガイド」を参照してください。

本書に掲載されている画面イメージ上に記載されている名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。また、画面イメージ上の設定値は例であり、各設定値についての動作保証を行うものではありません。

本書中の「EXPRESSBUILDER」の記述は、装置によって「ユーティリティ CD」に適宜読み替えてください。

■ 本書中の記号
本文中では次の種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します。

重要： **ソフトウェア、装置を取り扱う上で守らなければならない事柄、特に注意すべき点を示します。**
チェック： **ソフトウェア、装置を取り扱う上で確認しておく必要がある点を示します。**
ヒント： **知っておくと役に立つ情報、便利なことなどを示します。**

第1章　概要

ExpressUpdate Agent は、ESMPRO/ServerManager(Ver5.1 以降)で管理された管理対象装置で動作し、管理対象装置のファームウェア、ソフトウェアなどのモジュールを、ESMPRO/ServerManager(Ver5.1 以降)によってリモートから更新することを可能とするソフトウェアです。

第2章　動作環境

ExpressUpdate Agent は管理対象装置にインストールしてください。
ExpressUpdate Agent を動作させることができる環境は以下のとおりです。

■ ハードウェア

ESMPRO/ServerManager(Ver5.1 以降)の管理対象装置で、かつ、以下の条件を満たしていることが必要です。

- **管理対象装置**
  Express5800 シリーズおよび iStorage NS シリーズ

- **メモリ**
  512MB 以上

- **ハードディスクの空き容量**
  300MB 以上

■ ソフトウェア

- **OS**
  Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition (SP1 以降)
  Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition
  Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition (x64 SP1 以降)
  Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition (x64)
  Microsoft Windows Server 2008 Standard/Enterprise/ServerCore
  Microsoft Windows Server 2008 Standard/Enterprise/ServerCore (x64)
  Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise/ServerCore (x64)
  Microsoft Windows XP Professional (SP2 以降)
  Microsoft Windows XP Professional (x64 SP2 以降)
  Microsoft Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise
  Microsoft Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise (x64)
  Microsoft Windows 7 Ultimate/Professional/Enterprise
  Microsoft Windows 7 Ultimate/Professional/Enterprise (x64)

  Red Hat Enterprise Linux ES 4 (x86, x64)
  Red Hat Enterprise Linux AS 4 (x86, x64)
  Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform 5 (x86, x64)
  Red Hat Enterprise Linux Server 5 (x86, x64)
  Red Hat Enterprise Linux Server 6 (x86, x64)
  Miracle Linux 4.0 – Asianux Inside (x86, x64)
  Asianux Server 3 ==MIRACLE LINUX V5 (x86, x64)
  SUSE Linux Enterprise Server 10 (SP2, SP3)(x86, x64)
  VMware ESX4.1

重要：

- 以下の環境の場合、ExpressUpdate Agent のインストールをサポートしていません。
  ・仮想マシンのゲスト OS へのインストール
- Windows Server 2008 R2 Server Core 環境の場合、Wow6432Node をアンインストールした場合、ExpressUpdate Agent を正常にインストールすることができません。
  ExpressUpdate Agent をインストールする場合は、Wow6432Node をアンインストールしないでください。
- ExpressUpdate Agent を Red Hat Enterprise Linux Server 6 (x64)で使用する場合は、以

下のパッケージが必要です。これらがインストールされていない場合は、OS のインストールディスクから追加でインストールしてください。
・glibc(i686 版)
・nss-softokn-freebl(i686 版)
・libxml(i686 版)
・zlib(i686 版)
・libstdc++(i686 版)
・libgcc(i686 版)

- **その他**

ExpressUpdate Agent を利用するために、以下のソフトウェアがインストールされます。
・OpenSLP (OS に標準で OpenSLP がインストールされている SUSE Linux Enterprise Server または VMware ESX4.1 を除き、ExpressUpdate Agent が自動的にインストールします。)
・Apache Axis2c

チェック：

- ExpressUpdate Agent の新規インストール時に、OpenSLP 以外の SLP ソフトウェアがインストールされていると ExpressUpdate Agent が正常に動作しない可能性があります。ExpressUpdate Agent をインストールする前に、OpenSLP 以外の SLP ソフトウェアはアンインストールしてください。
- ExpressUpdate Agent の新規インストール時に、SUSE Linux Enterprise Server または VMware ESX4.1 以外で、OpenSLP がすでにインストールされている場合は、ExpressUpdate Agent をインストールすることができません。OpenSLP をアンインストールしてから実行してください。
  ただし、Windows において、Universal RAID Utility Ver 2.10 以上がすでにインストールされている場合は、OpenSLP をアンインストールする必要はありません。
- SUSE Linux Enterprise Server または VMware ESX4.1 に ExpressUpdate Agent を新規インストールする場合は、OS に標準でインストールされている OpenSLP の状況によって、以下のようになります。
  < OS 標準の OpenSLP が動作している場合 >
  ・ExpressUpdate Agent が OS 標準の OpenSLP をそのまま使用します。
  OpenSLP をアンインストールする必要はありません。
  < OS 標準の OpenSLP が停止している場合 >
  ・ExpressUpdate Agent が OS 標準の OpenSLP を起動して使用します。
  OpenSLP をアンインストールする必要はありません。
  < OS 標準の OpenSLP がアンインストールされている場合 >
  ・ExpressUpdate Agent が OpenSLP を自動的にインストールします。
- ExpressUpdate Agent の新規インストール時に、Axis2c 環境がインストールされている場合は、ExpressUpdate Agent をインストールすることができません。Axis2c 環境をアンインストールしてから実行してください。ただし、Windows において、Universal RAID Utility Ver 2.10 以上がすでにインストールされている場合は、Axis2c をアンインストールする必要はありません。
- ExpressUpdate Agent を使ってモジュールを管理する場合には、管理対象装置の OS によって、以下の ESMPRO/ServerManager が必要となります。
  < ExpressUpdate Agent (Windows)を使う場合 >
  ・ESMPRO/ServerManager (Windows)　Ver5.1 以降
  ・ESMPRO/ServerManager (Liunx)　　Ver5.1 以降
  < ExpressUpdate Agent (Linux)を使う場合 >
  ・ESMPRO/ServerManager(Windows)　Ver5.21 以降
  ・ESMPRO/ServerManager(Liunx)　　Ver5.14 以降
  ESMPRO/ServerManager の機能に関する詳細については、「ESMPRO/ServerManager Ver5 セットアップガイド」を参照してください。

第3章　インストール

3.1　ExpressUpdate Agentのインストール(Windows)

ExpressUpdate Agent をインストールする場合について説明します。

3.1.1　インストールを始める前に

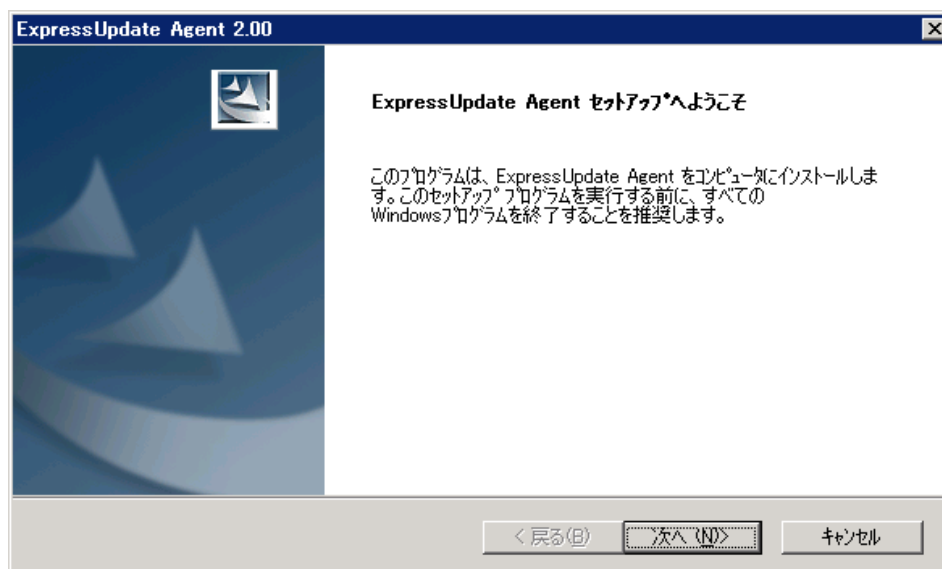
ExpressUpdate Agent のインストールを始める前に、以下のことを確認してください。
・2 章の動作環境を満たしていること。
・Administrator 権限で Windows にログインしていること。

3.1.2　インストールメニューの起動

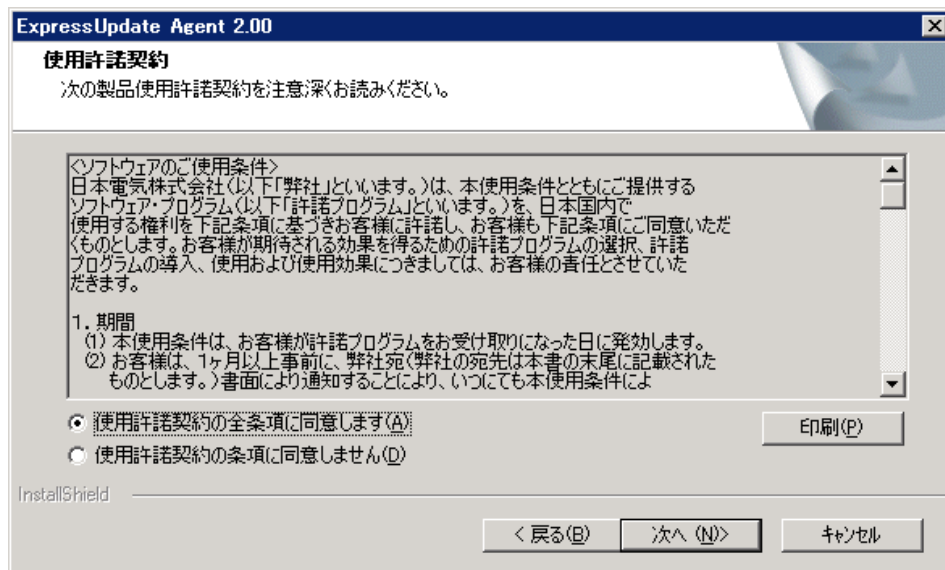
■　ダウンロードしたモジュールを使ってインストールする場合

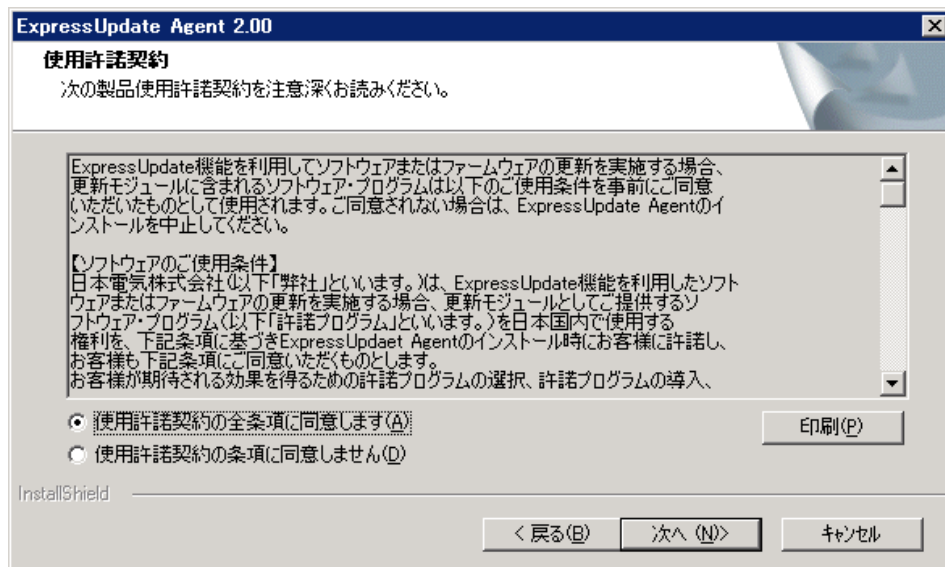
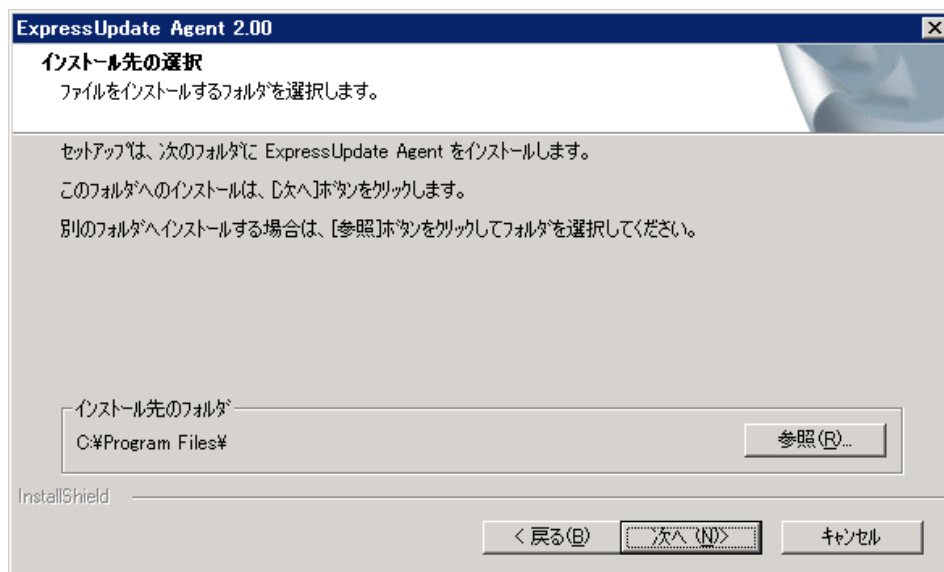
ダウンロードしたファイルを展開した後に、以下のファイルを実行してください。ExpressUpdate Agent のインストールが開始されます。

¥eu_agent¥setup.exe

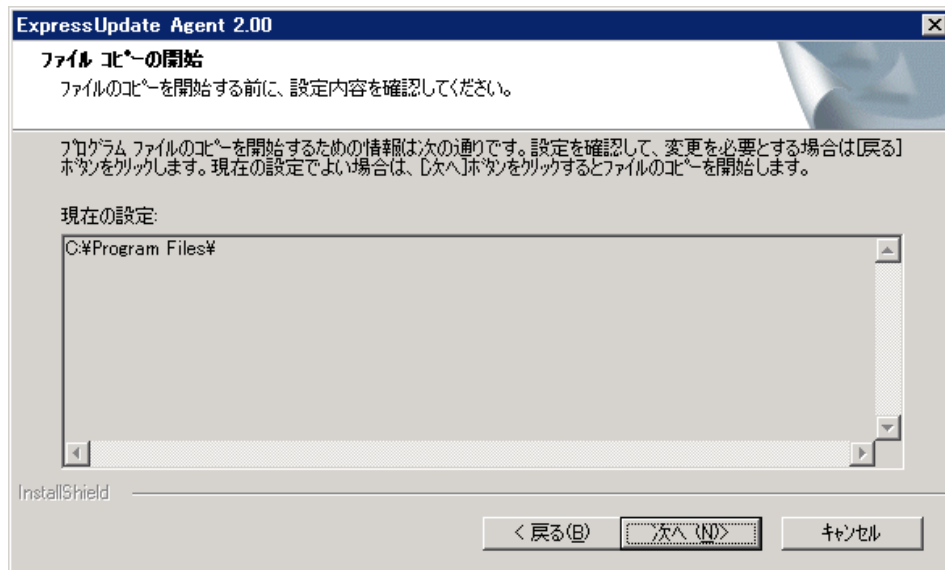
■　**EXPRESSBUILDER を使ってインストールする場合**

以下の手順で ExpressUpdate Agent のインストールを実行してください。

(1) Windows が起動している管理対象装置上で、EXPRESSBUILDER を DVD ドライブにセットしてください。オートラン機能によりメニューが表示されます。

(2) 「ESMPRO セットアップ」から「関連ユーティリティ」-「ExpressUpdate Agent」をクリックしてください。メニューが表示されない場合は、EXPRESSBUILDER に格納されている以下のファイルを実行してください。ExpressUpdate Agent のインストールが開始されます。
「EXPRESSBUILDER のリビジョンを示すディレクトリ」¥win¥eu_agent¥setup.exe
(例：¥001¥win¥eu_agent¥setup.exe)

3.1.3　ExpressUpdate Agentのインストール

ExpressUpdate Agent をインストールします。

(1)　ExpressUpdate Agent のインストーラが起動します。「次へ」ボタンをクリックしてください。

(2) ExpressUpdate Agent に対する使用許諾を熟読の上、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

(3) 更新モジュールに対する使用許諾を熟読の上、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

(4) インストール先のディレクトリを入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

チェック：

- Universal RAID Utility Ver 2.10 以上がすでにインストールされている場合は、上記画面は表示されないため、インストール先を選択することはできません。

ヒント：

- 上記画面が表示されない場合は、以下にインストールされます。
  <x86 の場合>
  <システムドライブ>¥ Program Files¥axis2c¥bin
  <x64 の場合>
  <システムドライブ>¥ Program Files (x86)¥axis2c¥bin

(5) 設定した内容を確認し、「次へ」ボタンをクリックしてください。インストールが開始されます。

重要：

- OS の再起動を促す画面が表示された場合は、指示に従い OS を再起動してください。

ヒント：

- インストール完了後､以下の方法で ExpressUpdate Agent が正常にインストールされたかどうかを確認できます。
  「管理ツール」-「サービス」をクリックし、「eciService」､「ExpressUpdate Agent」､「Service Location Protocol」が開始状態になっていれば、インストールは正常に完了しています。

- インストール時の注意事項については､4.1「インストール」も参照してください。

3.2 ExpressUpdate Agentのアンインストール(Windows)

ExpressUpdate Agent をアンインストールする場合について説明します。

3.2.1 アンインストールを始める前に

ExpressUpdate Agent のアンインストールを始める前に、以下のことを確認してください。
・Administrator 権限で Windows にログインしていること。

3.2.2 ExpressUpdate Agentのアンインストール

Windows の「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」からアンインストールします。「ExpressUpdate Agent」を選択し、「変更と削除」ボタンをクリックしてください。表示される指示に従ってアンインストールしてください。

チェック：

- OS が Server Core の場合は、インストール時に使用したインストーラを使って、以下のコマンドを実行することで、ExpressUpdate Agent をアンインストールすることができます。
  <実行コマンド>
  setup.exe /z"UNINSTALL"

3.3 ExpressUpdate Agentのインストール(Linux)

ExpressUpdate Agent をインストールする場合について説明します。

3.3.1 インストールを始める前に

ExpressUpdate Agent のインストールを始める前に、以下のことを確認してください。
・2 章の動作環境を満たしていること。
・root ユーザーでログインすること。

チェック：

- ExpressUpdate Agent インストーラの格納場所は下記のとおりです。
  ダウンロードしたモジュールを使ってインストールする場合：/eu_agent
  EXPRESSBUILDER の場合：
  「EXPRESSBUILDER のリビジョンを示すディレクトリ」/lnx/pp/eu_agent
  (例：001/lnx/pp/eu_agent)

VMware ESX4.1 の場合は、以下のように通信ポートをオープンしてください。

```
esxcfg-firewall --allowOutgoing
```

3.3.2 インストーラのコピーと展開

ExpressUpdate Agent のインストーラ(/eu_agent ディレクトリに格納されているすべてのファイル及びディレクトリ)を、管理対象装置の任意のディレクトリにコピーしてください。
以下は/usr/local/bin にコピーする場合の例です。

(1) /usr/local/bin 配下に/ExpressUpdate ディレクトリを作成してください。

```
mkdir -p /usr/local/bin/ExpressUpdate
```

(2) eu_agent ディレクトリを/usr/local/bin/ExpressUpdate にコピーしてください。

(3) インストーラをコピーしたディレクトリに移動してください。

```
cd /usr/local/bin/ExpressUpdate/eu_agent
```

(4) インストーラを展開してください。

```
tar xzvf ExpressUpdateAgent-N.NN-x.tgz
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分は、バージョンごとに異なります。

3.3.3 ExpressUpdate Agentのインストール

ExpressUpdate Agent をインストールします。

(1) インストーラを展開したディレクトリに移動してください。

```
cd /usr/local/bin/ExpressUpdate/eu_agent/ExpressUpdateAgent-N.NN-x
```

ディレクトリ名の「N.NN」で示した部分は、バージョンごとに異なります。

(2) 以下のシェルファイルを実行してください。

```
./ExpressUpdateAgent-N.NN.sh
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分は、バージョンごとに異なります。

(3) ExpressUpdate Agent のインストール確認が表示されます。「yes」を入力し、Enter キーを押してください。「no」を入力した場合、インストールされません。

(4) 製品の使用許諾契約が表示されます。契約内容を注意深くお読みになり、契約に同意する場合は「yes」を入力し、Enter キーを押してください。「no」を入力した場合、インストールされません。
ExpressUpdate Agent は、/opt/nec/axis2c にインストールされます。

インストールが完了した場合、以下のメッセージが表示されます。
「ExpressUpdate Agent のインストールが完了しました。」

チェック：

- インストール時に使用したファイルは、アンインストール時にも使用しますので、削除しないでください。

ヒント：

- インストール完了後､以下のコマンドで ExpressUpdate Agent が正常にインストールされたかどうかを確認できます。
  ps -ef | grep axis2c

  上記コマンドの実行結果として、以下がすべて表示されれば、正しくインストールされています。
  /opt/nec/axis2c/bin/eciServiceProgram
  /opt/nec/axis2c/bin/axis2_http_server
  /opt/nec/axis2c/bin/EUAgent
  /opt/nec/axis2c/bin/slpd (SUSE Linux Enterprise Server 標準の OpenSLP 使用時を除く)

- インストール時の注意事項については、4.1「インストール」も参照してください。

3.4 ExpressUpdate Agentのアンインストール(Linux)
ExpressUpdate Agent をアンインストールする場合について説明します。

3.4.1 アンインストールを始める前に
ExpressUpdate Agent のアンインストールを始める前に、以下のことを確認してください。
・root ユーザーでログインすること。

3.4.2 ExpressUpdate Agentのアンインストール
ExpressUpdate Agent をアンインストールします。

(1) インストール時に、インストーラを展開したディレクトリに移動してください。

```
cd /usr/local/bin/ExpressUpdate/eu_agent/ExpressUpdateAgent-N.NN-x
```

ディレクトリ名の「N.NN」で示した部分は、バージョンごとに異なります。

(2) 以下のシェルファイルを実行してください。

```
./ExpressUpdateAgent-N.NN.sh
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分はバージョンごとに異なります。

(3) ExpressUpdate Agent のアンインストール確認が表示されます。「delete」を入力し、Enter キーを押してください。

アンインストールが完了した場合、以下のメッセージが表示されます。
「ExpressUpdate Agent のアンインストールが完了しました。」

第4章　注意事項

4.1　インストール

- ExpressUpdate Agent は、現在インストールされているバージョンから古いバージョンへダウングレードできません。古いバージョンを使う場合は、いったんアンインストールしてから、再度インストールしてください。ただし、アンインストールした場合、それまでの情報はすべて削除されますのでご注意ください。

- ExpressUpdate Agent (Windows)を CD/DVD 等の媒体からインストールするとき、以下のような現象になった場合は、CD/DVD 等の媒体からハードディスク上にインストーラをコピーしてからインストールしてください。
  - ・ ディスクを要求するメッセージが表示されて、インストールできない。
  - ・ eciService のインストールに失敗した旨のメッセージが表示されて、インストールできない。
  - ・ インストール後、「管理ツール」-「サービス」に「eciService」が存在しない。

- ExpressUpdate Agent の新規インストール時に、Axis2c 環境がインストールされていないにも関わらず、既存の Axis2c 環境と共存できない旨のメッセージが表示され、インストールできない場合は、以下のようにしてください。

  〇Windows の場合
  環境変数「AXIS2C_HOME」を削除してからインストールを実行してください。
  すでに削除されている場合は、OS を再起動後にインストールを実行してください。

  〇Linux の場合
  axis2_http_server プロセスが動作しています。
  axis2_http_server プロセスを停止してからインストールを実行してください。

- ExpressUpdate Agent (Linux)のインストール時に、以下のような SELinux 関連のメッセージが表示された場合、ることがあります。

```
libsemanage.semanage_link_sandbox: Could not access sandbox base file /etc/selinux/targeted/modules/tmp/base.pp.
/usr/sbin/semanage: /opt/nec/axis2c/xxxxx/xxxxx のファイルコンテキストを追加できませんでした
```

この後で、SELinux のポリシーをアップデートした場合は、以下の手順で再度 SELinux の設定をしてください。

(1) セキュリティの設定をします。

```
semanage fcontext -a -t textrel_shlib_t /opt/nec/axis2c/services/eciService/libeciService.so
semanage fcontext -a -t textrel_shlib_t /opt/nec/axis2c/services/eciServicePlain/libeciServicePlain.so
semanage fcontext -a -t textrel_shlib_t /opt/nec/axis2c/lib/libpwcb.so.0.0.0
chcon -f -t textrel_shlib_t /opt/nec/axis2c/services/eciService/libeciService.so
chcon -f -t textrel_shlib_t /opt/nec/axis2c/services/eciServicePlain/libeciServicePlain.so
chcon -f -t textrel_shlib_t /opt/nec/axis2c/lib/libpwcb.so.0.0.0
```

(2) ExpressUpdate Agent を再起動します。

```
cd /opt/nec/axis2c/bin
./eciServiceReStart.sh
```

4.2 OSのIPアドレス変更

管理対象装置の OS の IP アドレスを変更した場合は、ExpressUpdate Agent が変更後の IP アドレスを認識するために、ExpressUpdate Agent の実行に必要な機能を自動的に再起動し、最新の状態に更新します。

4.3 Windowsファイアウォール

ExpressUpdate Agent は､インストール時に管理対象装置のファイアウォール例外プログラムとして、以下を自動で登録します。

・ axis2_http_server
・ slpd

4.4 Linuxファイアウォール

ExpressUpdate Agent は起動時にファイアウォールに対する設定を行っています。ExpressUpdate Agent 起動後に、ファイアウォールの設定を無効から有効に変更した場合、または、セキュリティレベルの設定画面でファイアウォールの設定を変更した場合は、ExpressUpdate Agent のファイアウォール設定が無効になります。
この場合、以下の手順でシェルスクリプトを実行すれば、ExpressUpdate Agent のファイアウォール設定が再設定されます。

(1) root ユーザーでログインしてください。

(2) シェルスクリプトが存在するディレクトリに移動してください。

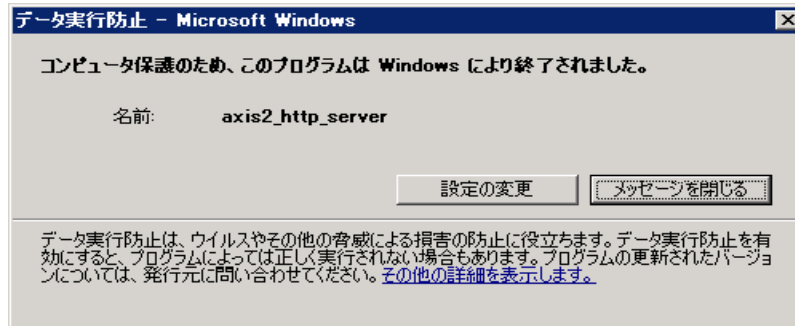
```
cd /opt/nec/axis2c/bin
```

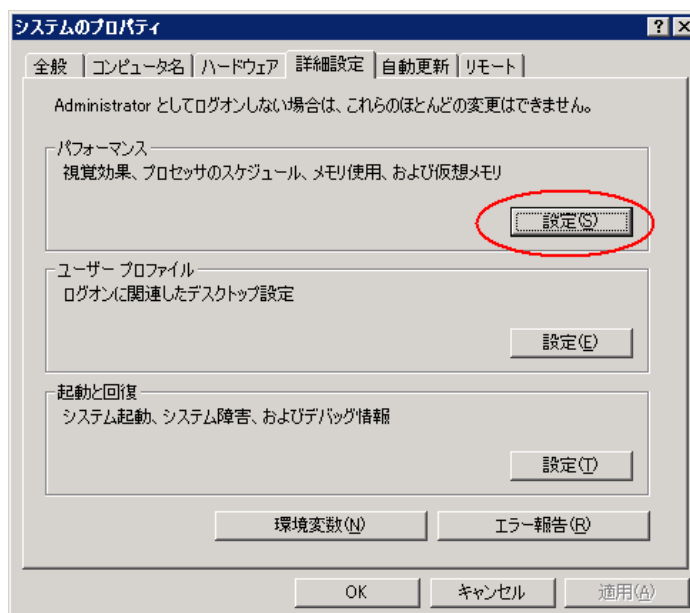
(3) 以下のシェルスクリプトを実行してください。

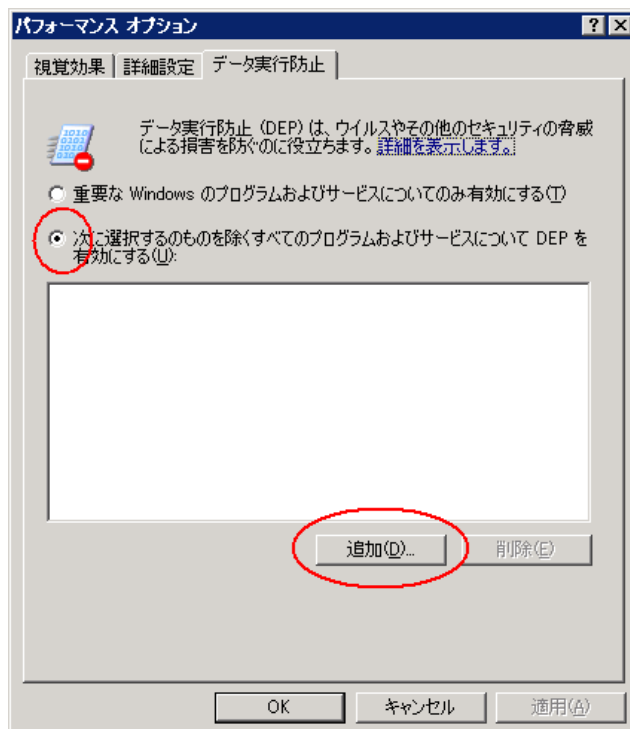
```
./eci_setport.sh
```

4.5 管理対象装置のサーバマネージメントドライバ

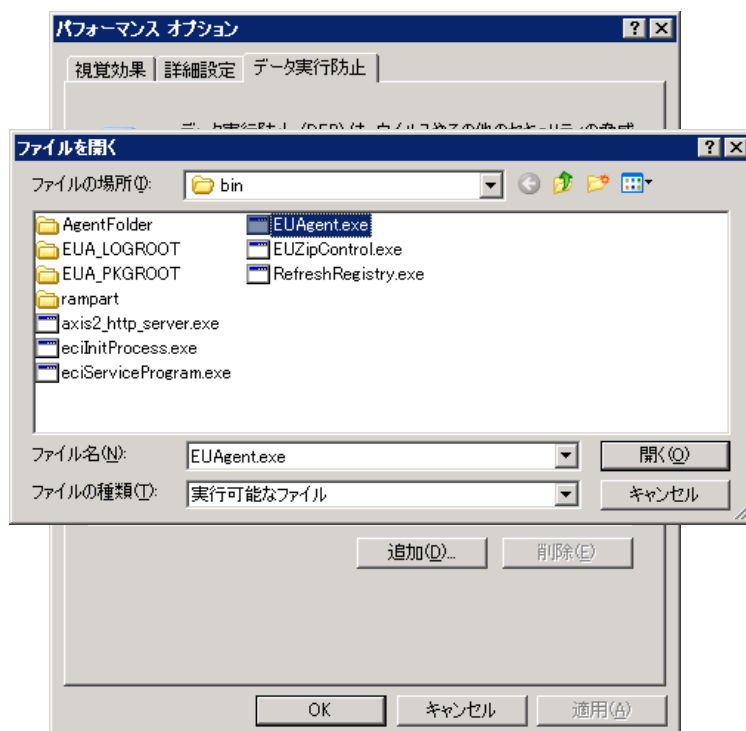
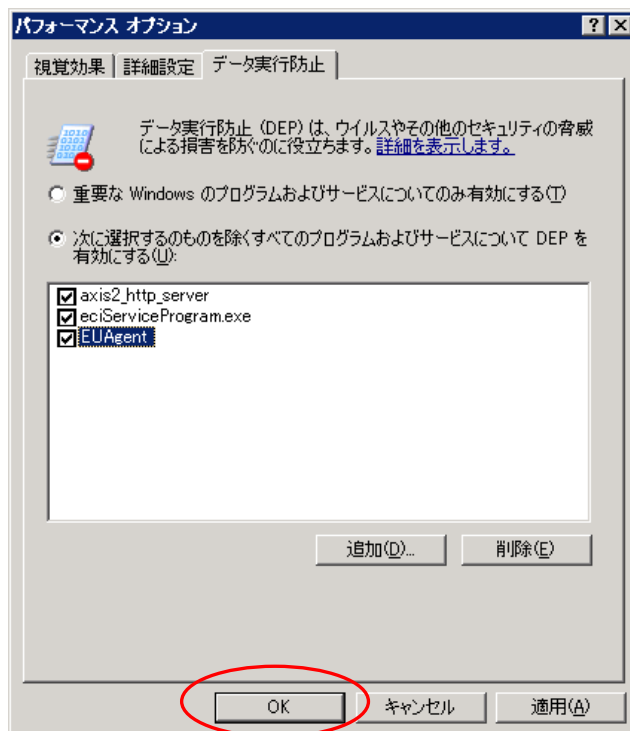
管理対象装置に EXPRESSSCOPE エンジンシリーズなどの BMC が搭載されているにもかかわらず、BMC ファームウェアの現在のバージョンが「Unknown」と表示されている場合、管理対象装置にサーバマネージメントドライバがインストールされていない事が考えられます。この場合は BMC ファームウェア更新パッケージの適用をすることができません。以下の手順に従ってサーバマネージメントドライバのインストールを行ってください。

〇Windows の場合
EXPRESSBUILDER のメニューからシステムのアップデートを実行してください。

〇Linux の場合
以下のサイトから、ご使用の管理対象装置とカーネルバージョンに対応したサーバマネージメントドライバをダウンロードし、インストールを行ってください。

http://www.express.nec.co.jp/linux/dload/esmpro/index.html

4.6 Windowsデータ実行防止機能(DEP)

ExpressUpdate Agent を使用中に、Windows のデータ実行防止機能(DEP)のために、以下のようなダイアログが表示されることがあります。

この場合、管理対象装置で以下の設定を行って、プログラムを DEP の対象外に設定してください。

(1) Windows の「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックしてください。

(2) システムのプロパティ「詳細設定」タブ内にある「パフォーマンス」の「設定」ボタンをクリックしてください。

(3) パフォーマンスオプションの「データ実行防止」タブ内にある「次に選択するものを除くすべてのプログラムおよびサービスについて DEP を有効にする」を選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。。

(4) 開かれたダイアログから、ExpressUpdate Agent がインストールされているディレクトリに移動し、「EUAgent.exe」を選択し、「開く」ボタンをクリックしてください。

同様のことを、「eciServiceProgram」、「axis2_http_server」でも行ってください。

(5) 以下のような画面になっていることを確認し、「OK」ボタンをクリックしてください。

(6) OS の再起動が要求された場合は、OS を再起動してください。

4.7 Windows Print Spoolerサービスを使わない場合

Print Spooler サービスを停止した場合、eciService も停止します。Print Spooler サービスを使わない場合は、以下の手順で eciService の再起動を行ってください。

(1) Print Spooler サービスを停止した場合は、Print Spooler、eciService の順で、2 つのサービスを再度開始してください。

(2) Print Spooler が動作している状態で、Print Spooler の「プロパティ」-「全般」-「スタートアップの種類」を、「手動」または「無効」にしてください。

(3) Print Spooler サービスを停止してください。

(4) eciService サービスを開始してください。

Revision History

1.00	2009/02/04	新規作成
1.01	2009/02/12	Apache Software Foundation の LICENSE 条文を修正
2.00	2009/09/29	誤記修正 動作環境を修正 注意事項を追加 ライセンスファイルの記載を修正
2.10	2009/10/08	ExpressUpdate Agent(Linux)のインストール／アンインストール手順を追加 ExpressUpdate Agent をダウンロードした場合の手順を追加 動作環境を追加及び修正 注意事項を追加及び修正 ライセンスファイルの記載を修正 誤記修正
2.11	2009/11/26	対象 OS に SLES10 を追加 ライセンスファイルの記載を修正 誤記修正
2.12	2010/02/17	外部ライブラリの記載を追加 対象 OS の SLES10 に SP を明記 ExpressUpdate Agent(Windows)のインストール手順を修正 Copyright 修正 誤記修正
2.20	2010/02/23	誤記修正
2.30	2010/07/21	インストールについての注意事項を追加及び修正
2.31	2010/08/26	フォント修正
3.00	2011/04/13	対象 OS に RHEL6 及び VMware ESX4.1 を追加 ExpressUpdate Agent(Linux)のインストール手順に VMware ESX4.1 の記載を追加 Print Spooler サービスについての注意事項を追加 誤記修正
3.01	2011/04/27	ドキュメントのタイトルをインストレーションガイドに変更 誤記修正
3.02	2011/06/24	RHEL6(x64)での必要パッケージを追加 表紙変更